

EC11 藏越 直人
指導教員 山館 順 准教授

1. 緒言

本研究は 23 年度卒、内田祐基氏の研究である「北海道南部出土中世銭貨の成分分析」を引き継いだものである。[1]

北海道函館高専から拝借した北海道南部の知内町の湧元館付近より出土した 26 枚の古銭に対し、非破壊検査による成分分析等の計測を行い、データベース化し特徴と傾向の検討を行った。また、東京都埋蔵文化財センターから拝借した東京都多摩ニュータウン出土の古銭 11 枚を同様に計測し、脇本古銭との成分比率についての比較検討も行った。

2. 研究のアプローチ

中世社会を伝える資料は戦争や災害などによって多くが失われており、文書史料だけでは近世以前の状況を解明するには不十分である。この失われた分の埋め合わせとして本研究が目的とする物質資料の分析が必要となる。中世銭貨は国内外無数の遺跡から出土しており 1 枚の銭貨からも銭種の特定はもとより成分分析による製造法、産地同定の手掛かりなどの情報を引き出す事が出来る。[2]

昨年までの研究内容は銭貨の成分と直径のみであり、本研究の最終目標である製造場所を割り出すための資料として不十分だと感じていた。そのため今回は古銭の枚数を調整し、比較検討の行いやすいデータベースとして機能するようにした。さらに上記 2 種類の計測以外にも銭貨の厚み、重量、そして文字の形状の 3 項目を付け加えた 5 種類の測定を行った。

3. 結果

2 で述べた計測結果のサンプルを表 1 に示す。

表 1: 古銭 ID 11Bb01 のデータベース

古銭ID	11 Bb01		平均値	最大最少の差
出土地	湧元	幅(mm)	25.01	0.00
古銭種	永樂通寶	厚み(mm)	1.864	0.082
提供元	函館高専	重量(g)	4.745	
成分分析結果(mass%)				
銅	鉛	錫	鉄	その他
48.40	38.40	11.40	1.78	0.00
特徴				
永点太通マ湾曲				

次にこれらデータベース化したものを元に比較検討を行った。本研究では出土地別、古銭種別、成分比率別に比較をおこなったが、スペースの都合

上古銭種別の成分データの比較をサンプルとして表 2 に示す。

表 2: 永樂通寶の成分比較
脇本古銭

古銭ID	含有成分(mass%)				
	Cu(銅)	Pb(鉛)	Sn(錫)	Fe(鉄)	その他
11Bb01	48.40	38.40	11.40	1.78	0.00
11Bb02	46.30	46.20	6.28	0.93	0.20
11Bb03	36.20	56.30	6.31	1.20	0.00
11Bb04	61.00	27.40	9.29	1.57	0.75
11Bb05	56.70	31.20	9.84	2.24	0.00

多摩ニュータウン古銭

古銭ID	含有成分(mass%)				
	Cu(銅)	Pb(鉛)	Sn(錫)	Fe(鉄)	その他
11Db01	45.50	31.80	19.40	1.98	1.34
11Db02	60.20	26.40	9.54	1.69	2.25
11Db03	74.90	14.00	10.10	1.04	0.00
11Db04	67.50	21.20	9.02	1.59	0.72

脇本古銭は No04,05 に近似した結果を得られた。また、別の出土地である 11Bb04 と 11Db02 にも近似した結果が得られた。

4. 結論

同じ出土地の古銭でも成分比率に差があり、比率の近似している例は数件にとどまった。含有率による公銭か私鑄銭かの線引きはある程度判別可能だが、これだけでは本州以南で作られたものか北海道内で作られたものかを判断する材料としては不十分である。今回は測定項目を増やしてデータベースとしての質を向上させたため、成分分析の結果、関連性の薄い古銭と判断された物同士からも共通点を見出す事が出来た。

5. 今後の発展

今回行った 5 種類の測定法のうち、重量は比較を行う際にはあまり役に立たなかった。これは幅や厚さなどの規格がバラバラであったためであり、今後は今回使用した 5 種類の項目に、新たに比重を加えることも検討している。また、次年度の目標として無作為の抽出による成分分析を検討することで、湧元の交易範囲についての手掛かりを探し出し、この点から産地同定の手掛かりを検討したい。

文献

- [1] 山岸直幸: “3902 南関東中世銭貨の成分分析”, サレジオ高専 歴史資料学研究室 卒業研究, 2010
- [2] 櫻井晋一: “貨幣考古学序説”, 慶応義塾出版会, pp21-26, 29-30, Sept. 2009.